

木口屋集落<地球の家>アートプロジェクト 野外アートミュージアム展

世界の環境アートシーンが注目する池田一のいまもっとも先進的なプロジェクト

KIGUCHIYA EARTH HOME ART PROJECT

木口屋集落<地球の家>アートプロジェクトは、植生などの環境変化、住民との対話等によって変わり続ける<生長するアート>。地域の人たちと共に育む環境アートの、日本から世界への提案です。

produced by

池田一

鹿児島県枕崎市木口屋集落

photo © 2010 tatsuro kodama

地球の家

木き口く屋ち集や落

kiguchiya, makurazaki, kagoshima, JAPAN

『限界集落』から『未来志向集落』へ
想像の域を超えたアートがここに。みんなで作ろう！『地球の家』

むらひとみらい

木口屋集落は、鹿児島県枕崎市、標高 140m の丘にある、いわゆる限界集落(約 30 戸、平均年齢 70 歳超)ですが、東西南北約 1 km の広さの中に、茶畑、ミカン畑が点在し、まさに里山の中に集落があるといった感じの村です。背後の旗山には、集落の旗がひるがえり、眼下には枕崎の市街地、そして港、東シナ海が広がる、まさにここは、天空の村だ！この確かな直観から、さまざまな境界、障害、差別を超えて、誰もが集う<地球の家>に変えたいという未来志向の壮大なプロジェクトがスタートしたのです。(池田一)

Exhibition date **2011年1月15日(土)~1月30日(日)** 会場 鹿児島県枕崎市木口屋集落(詳細裏面)

Opening Day 1/15 (土)

3:00pm~ 池田一ガイドによる「木口屋集落(地球の家)野外アートミュージアム展」ツアー
「天空の間」→「緑の書斎」→「矢形の水広間」(※ 緑の書斎でワークショップ「水の生き物を探そう」)
5:00pm~ オープニングセレモニー(矢形の水広間にて)
6:00pm~ 「矢形の水広間」点灯式
7:00pm~ オープニング・レセプション(自然花にて)

天空気分を堪能する「天空の間」
眼下に広がる枕崎市、港、東シナ海。もたれ柱に身を預けて、風の音に、自然との対話が進む。

地球の家 天空の間

主催/ NPO 法人エコ・リンク・アソシエーション
共催/ NPO 法人子育てふれあいグループ自然花、NPO 法人アースハーバー
後援/ 枕崎市、枕崎市教育委員会、南日本新聞社、MBC 南日本放送
協力/ 木口屋集落住民のみなさん

助成/ 平成 22 年度 かごしま文化芸術活性化事業(鹿児島県)

お問い合わせ/ ●NPO 法人エコ・リンク・アソシエーション

〒897-0006 鹿児島県南さつま市加世田本町 53-6
(0993) 53-7270 • E-mail : kiguchiya-ap@eco-link.jp



地球の家 木口屋集落

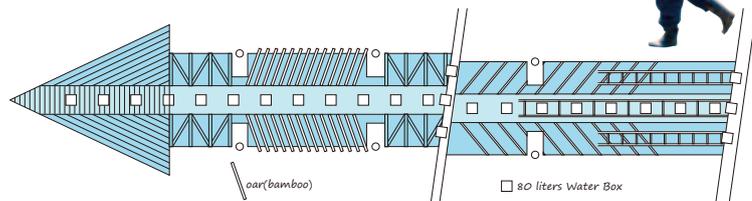
地球の家
矢形の水広間
池田一

東シナ海に針路を向けて『矢形の水広間』
全長 50m の水広間は、水談義が弾む大広間。矢形の先の東シナ海を眺望し、未来の水を運ぶ船乗り気分。

地球の家 矢形の水広間

小川と緑に包まれて『緑の書斎』
小川のせせらぎを聴く、豊富な緑に生物多様性を学ぶ、ここは地球の息づかいのただ中の書斎。

地球の家 緑の書斎



oar(bamboo)

80 liters Water Box



■ 池田一 Ichi Ikeda <http://www.ikedawater.org/>

1943 大阪生まれ。地球環境問題、特に水と強く結びついた作品を制作する。1997 年から、いかなる場所も地球上の次の世代に「未来のための水」を送る起点となるという着想によって、世界規模の「水駅伝」プロジェクトを手がける。2008 年 5 月には、ニューヨークの国連本部での環境セミナーに招待され、社会と自然のシステムにおける、新しいパースペクティブの必要性を、「Water's-Eye 水瞰図法」として提案した。2008 年の「花渡川アートプロジェクト(鹿児島)」以降、「The Missing Peace 東京展」、デリー(インド)での野外展、2009 年のカナダ「Earth Art 展」、新潟「水と土の芸術祭」での招待作品を経て、2010 年は韓国「公州、釧路でプロジェクトを展開。また、アメリカの中高校生用の教育プログラム「Sustainable Communities」(持続可能なコミュニティ)や、ミネソタ大学出版局刊「The Ethics of Earth Art」の結論の章に取り上げられるなど、アートを越えた広域な影響力をもつ。2011 年は、フィンランドでの国際展「Eco Art 展」、釧路湿原がテーマの「釧路水アートプロジェクト KWAP」、「Nature's Toolbox」世界巡回展への招待作品など、世界の環境アートシーンでの発言力はますます高まりつつある。